

事務事業名		森林病害虫等防除事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業
政策体系	政策名	0 1 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間	
	施策名	0 2 地域特性を活かした農林業の振興		区分	
	基本事業名	0 2 林業の活性化		単年度繰返	
根拠法令		-		※期間欄に開始年度を記入	
所属	部課名	農林水産部農林課		【開始年度】	
	課長名	佐藤 雅基		平成13 年度～	
	係名	林業係	電話	0192-27-3111	
	担当者	多田 尚平	内線	338	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				事務事業区分	
<p>貴重な森林資源を松くい虫被害及びナラ枯れ被害から守るため、被害木や感染の可能性がある枯損木を処理(伐倒くん蒸・伐倒運搬破碎等)して、被害の拡大拡散の防止と感染源の完全駆除を目指すもの。</p> <p>主な業務内容①航空探査による被害木の確認、②地上探査による被害木の確認、③所有者から承諾をもらう、④施行者との契約⑤被害木の処理(伐倒くん蒸・伐倒運搬破碎・立木くん蒸)、⑥完了検査、⑦施行者への支払、⑧県への補助金申請。事業費は、委託料から支出される(補助率 県補助10/10又は3/4)。</p> <p>「松くい虫被害」とは＝松枯れを引き起こす「マツノザイセンチュウ」という線虫が、「マツノマダラカミキリ」という昆虫の体内に付着しながら松の木に運ばれて、侵入し、松を枯らしてしまうもの。その「マツノザイセンチュウ」と「マツノマダラカミキリ」の総称を「松くい虫」という。「伐倒くん蒸」とは＝被害木を切り倒し、山積みにしてシートで覆い、その密閉した中に殺虫薬剤を投入して、虫を蒸して殺虫する駆除方法。「伐倒運搬破碎」とは＝被害木を切り倒し、破碎工場に運搬し、細かく破碎して駆除する方法。「ナラ枯れ被害」とは＝大量の「カシノナガキクイムシ」がナラ・カシ類の幹に穴をあけてせん入し、体に付着した病原菌(ナラ菌)を多量に樹体内に持ち込むことにより樹木が枯死すること。「立木くん蒸」とは＝立木のまま樹幹の下部にドリルで穴をたくさん開けて殺虫薬剤を注入し、カシノナガキクイムシを殺虫する駆除方法。</p>				A 政策事業	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
				総投入量(千円)	0
				事業費	0
				財源内訳	0
				国庫支出金	
				都道府県支出金	
				地方債	
				その他	
				一般財源	
				事業費計(A)	0
				正規職員従事人数	
				延べ業務時間	
				人件費計(B)	0
				トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)								
前年度実績(前年度に行った主な活動) 松くい虫被害及びナラ枯れ被害木の処理を委託した。	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 松くい虫被害木の処理数量(材積)</td> <td>m³</td> </tr> <tr> <td>イ ナラ枯れ被害木の処理数量(本数)</td> <td>本</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 松くい虫被害木の処理数量(材積)	m ³	イ ナラ枯れ被害木の処理数量(本数)	本	ウ	
名称	単位								
ア 松くい虫被害木の処理数量(材積)	m ³								
イ ナラ枯れ被害木の処理数量(本数)	本								
ウ									
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 松くい虫被害及びナラ枯れ被害木の処理を委託する。									
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 松くい虫被害及びナラ枯れ被害木	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)								
	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 松くい虫被害木の数量(材積)</td> <td>m³</td> </tr> <tr> <td>キ ナラ枯れ被害木の数量(本数)</td> <td>本</td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 松くい虫被害木の数量(材積)	m ³	キ ナラ枯れ被害木の数量(本数)	本	ク	
名称	単位								
カ 松くい虫被害木の数量(材積)	m ³								
キ ナラ枯れ被害木の数量(本数)	本								
ク									
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 適正に処理され、被害の拡大・拡散の防止が図られる。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)								
	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 松くい虫被害木処理の実施率 (被害木の処理数量/被害木の数量)</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>シ ナラ枯れ被害木処理の実施率 (被害木の処理数量/被害木の数量)</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ 松くい虫被害木処理の実施率 (被害木の処理数量/被害木の数量)	%	シ ナラ枯れ被害木処理の実施率 (被害木の処理数量/被害木の数量)	%	ス	
名称	単位								
サ 松くい虫被害木処理の実施率 (被害木の処理数量/被害木の数量)	%								
シ ナラ枯れ被害木処理の実施率 (被害木の処理数量/被害木の数量)	%								
ス									
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 安定して林業を営む。									

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	年度						
		2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	事業費	千円	0	0	0	0	0	0
	財源内訳	千円	16,867	17,836	14,601	11,505	25,885	25,885
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	8,656	9,865	10,016	3,516	3,666	3,666
事業費計(A)	千円	25,523	27,701	24,617	15,021	29,551	29,551	
人件費	人	1	1	1	2	1	1	
正規職員従事人数	時間	600	600	600	600	600	600	
延べ業務時間	千円	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	
人件費計(B)	千円	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	
トータルコスト(A)+(B)	千円	27,923	30,101	27,017	17,421	31,951	31,951	
⑤活動指標	ア	m ³	353	413	351	207	340	340
	イ	本	645	551	256	265	330	330
	ウ							
⑥対象指標	カ	m ³	996	677	763	1,782	1,782	1,782
	キ	本	1,173	468	279	456	456	456
	ク							
⑦成果指標	サ	%	35	61	46	12	19	19
	シ	%	55	118	92	58	72	72
	ス							

事務事業ID	0553	事務事業名	森林病虫害等防除事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	大船渡市においても松くい虫の被害が確認されたため、平成13年度から被害の拡大拡散の防止と完全駆除を目指して事業を開始した。平成26年度からは、ナラ枯れ被害の発生に伴いナラ枯れ防除の実施を開始した。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	松資源を守るためにも重点的に処理を行う地域として、平成17年度から農林水産大臣の命令による駆除も開始された。平成26年度からは国庫補助事業を用いたナラ枯れ防除を開始した。 県内全域に被害が拡大しており、薬剤による駆除のほか、樹種転換による被害拡大防止策の推進が始まっている。 令和3年度から、岩手県において、枯死木除去の補助制度が開始されたことにより、令和4年に事業実施した。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	森林所有者や関係機関からは、拡大拡散の防止と完全駆除のために一層強力な対策を講じるよう求められている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由・内容 被害木の処分により、被害の拡大拡散の防止が図られるとともに、健全な森林が保全され、林材としての供給や景観形成が保たれ、産業振興や豊かな市民生活につながるため、政策体系と結びつく。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由・内容 健全な森林は、林材の供給をはじめ、国土保全や景観形成などを担い、市民生活に深く関わるものである。被害木を放置しておく病害虫による感染が広がり森林に甚大な被害をもたらすため、市が関与することは妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由・内容 被害木を処分することで、被害の拡大拡散の防止が図られ、健全な森林が保全される。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない	理由・内容 地上及び空中からの徹底した調査により早期発見に努めるとともに、発見した被害木については、現地調査を行い、被害拡大への影響が大きいものから駆除している。成果の維持を図るため、事業の継続が必要。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由・内容 事業を、廃止・中止すると、被害木が放置され、病虫害による感染が広がり、産業面をはじめ国土保全や景観形成の面で甚大な被害が出るため、継続が必要である。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由・内容 被害木の処分には、専門的な技術や方法を要するとともに、依然として病虫害による感染被害は増える傾向にあるため、事業費の削減はできない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由・内容 事務事業に見合った適正な人件費であり、削減はできない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由・内容 事業は、森林所有者をはじめ、広く市民生活に関わるもので、補助金の負担割合も定まっている。受益者負担はない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							
1 現状維持	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×	現状どおり、事業を継続していく。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		●	×																					
	低下		×	×																					
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																									

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持	当面は現状維持で継続するものの、補助枠の拡大について国への要望を継続していく必要がある。